

教科・科目（単位数）	農業・生物活用（2）	学年	2年
使用教科書・副教材等	生物活用（実教出版）	集団	23HR動物活用コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生物活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 （2）生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （3）生物活用について交流による効果向上が生活の質の発展へつながるよう自ら学び、農業や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	社会動物の生態および動物を育てる楽しさやかわいがる喜びを体感できる動物介在活動の計画立案方法や活動の支援方法および、海外の事例を用いた動物介在療法の基礎知識を理解している。
② 思考・判断・表現	社会動物の生態および動物を育てる楽しさやかわいがる喜びを体感できる動物介在活動の計画立案方法を行い、計画→実践→反省→再実践を繰り返してより良い活動結果を求めている。
③主体的に学習に取り組む態度	社会動物の生態および動物を育てる楽しさやかわいがる喜びを体感できる動物介在活動の目的を理解し、それらを実際実践している。

評価方法	授業への取り組み、振り返り、分析 実習への取り組み、振り返り、分析 定期試験の理解度 レポート・提出物の内容
------	---

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	(1) 生物活用の意義と役割	動物介在活動の意義、実際の取り組み方。活動上留意する安全性概念を理解している。	○		○
5		動物介在活動（AAA）と動物介在療法の異なる点と生活の質（QOL）を向上させるために必要な活動のポイントを理解している。			
6	(2) 動物・植物と人間生活	春播き草花・野菜・飼料作物の栽培と活用法と実践している。	○		
7		イヌ、小動物の生理・生態、人間との関わりについて。および、介在活動に用いる管理動物の健康上の留意点（飼料の安全性、危険な食材に対する科学的な見地を理解している。			
9	(3) 社会動物の飼育と活用	イヌ、小動物の飼育環境や飼料の給与方法の基礎知識を習得している。			○
10		飼育される動物に関わる病気に関する知識と予防法を理解している。			
11	(4) 生物を活用した療法・活動	近隣小学校、幼稚園、保育園の児童に対して動物介在活動をPDC Aサイクルによって実践（事前プログラム、実践、活動の反省、次回への反映）している。	○	○	○
12		分離教育と共生教育について理解している。			
1	(5) 「生物活用」とプロジェクト学習	生物活用に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			○
2		生物活用に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 生物活用について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集			

		と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			
(6) 生物活用の実 際		近隣小学校、幼稚園、保育園の児童に対して動物介在活動をPDC Aサイクルによって実践（事前プログラム、実践、活動の反省、 次回への反映）している。 動物行動学の基礎知識を理解している。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・畜産（２）	学年	２年
使用教科書・副教材等	畜産（実教出版）	集団	２３HR 動物活用コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	家畜の特性や飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身に付け、飼育環境と家畜の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解している。各家畜に適した飼育管理技術、家畜及び畜産物の利用方法を身につけている。
② 思考・判断・表現	家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境及び飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境との関わりについて、適切に判断する能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味・関心を持ち、飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身に付け、適切な飼育管理ができる意欲的な態度を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験プリント、レポート 等） 記述の点検、確認、分析（実験プリント、レポート、グループワーク 等） 学習状況の観察、確認（実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	第一章 日本の畜産の特徴と役割 1.日本の畜産の特徴	自分たちの食生活を見つめるなかで、畜産物の需要について関心を持ち、調べることができる。			○
		日本の食料自給率と畜産物の供給、利用について考察し、その活用について判断できる。		○	
		地域環境と安全に配慮した畜産物の生産から消費までの食料供給の仕組みを理解している。	○		
5	2.日本における畜産物の需給の動向 3.畜産の役割 4.科学の発展と畜産	日本の畜産の特徴に関心をもち、世界の畜産との共通点及び違いなどを理解しようと意欲的に取り組んでいる。			○
		「食料生産」「地域産業」「環境保全」「食育」といった畜産のもつ多面的な役割について、総合的に考えることができる。		○	
		畜産が食料生産において果たしている役割と畜産の課題について理解している。	○		
6	第二章 家畜の生理・生態と飼育環境 1.家畜の生理・生態	家畜を取り巻く飼育環境に関心をもち、家畜の環境への対応能力と飼育環境の改善、動物福祉と家畜飼育についての学習に意欲的に取り組んでいる。			○
		家畜の観察や調査を通して生理・生態的な特性と生育の特徴を考察することができる。		○	

		家畜の分類や家畜化の条件など、家畜に関する基礎知識を身につけている。	○		
7	2.飼育環境の調節 3.家畜排せつ物の処理と利用	家畜排せつ物の利用法に関心を持つことができる。			○
		家畜と飼育環境との関係を理解し、家畜にとっての快適な環境について考えることができる。		○	
		家畜排せつ物の利用として、良質な堆肥の製造を行うことができる。	○		
9	第三章 家畜と飼料 1.家畜の栄養と栄養素	家畜の栄養と飼料について興味をもつことができる。			○
		家畜と栄養の概念を通して、食糧生産における畜産と飼料の関係について、その課題を考えることができる。		○	
		各家畜の消化器官と消化・吸収について、特性を理解し飼料給与を行うことができる。	○		
10	2.家畜の消化器官と飼料の消化・吸収	家畜の栄養と飼料について興味をもつことができる。			○
		家畜と栄養の概念を通して、食糧生産における畜産と飼料の関係について、その課題を考えることができる。		○	
		家畜の栄養と栄養素について科学的に理解している。	○		
11	3.飼料の特性と給与 4.飼料作物の特徴と草地の管理	飼料作物の栽培とその利用について関心をもつことができる。			○
		飼料作物、牧草の栽培と利用法について、自給飼料の意義を踏まえながら考えることができる。		○	
		飼養標準を活用して各家畜の状態に応じた飼料給与を行うことができる。	○		
12	第四章 家畜の飼育 1.養鶏	鶏の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		鶏の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		鶏の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
1	2.養豚	豚の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		豚の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		豚の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
2	3.酪農	乳牛の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		乳牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		乳牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		

教科・科目（単位数）	農業・畜産（４）	学年	２年
使用教科書・副教材等	畜産（実教出版）	集団	２３HR 生産動物コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

（２）家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

（３）家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	家畜の特性や飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身に付け、飼育環境と家畜の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解している。各家畜に適した飼育管理技術、家畜及び畜産物の利用方法を身につけている。
② 思考・判断・表現	家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境及び飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境との関わりについて、適切に判断する能力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味・関心を持ち、飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身に付け、適切な飼育管理ができる意欲的な態度を身につけている。

評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験プリント、レポート 等）
	・記述の点検、確認、分析（実験プリント、レポート、グループワーク 等）
	・学習状況の観察、確認（実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			③	④	⑤
4	「畜産」とプロジェクト学習	畜産に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身につけている。	○		
		畜産に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		畜産について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
	第一章 日本の畜産の特徴と役割	自分たちの食生活を見つめるなかで、畜産物の需要について関心を持ち、調べることができる。			○
5	2.日本における畜産物の需給の動向 3.畜産の役割 4.科学の発展と畜産	日本の食料自給率と畜産物の供給、利用について考察し、その活用について判断できる。		○	
		地域環境と安全に配慮した畜産物の生産から消費までの食料供給の仕組みを理解している。	○		
		日本の畜産の特徴に関心をもち、世界の畜産との共通点及び違いなどを理解しようと意欲的に取り組んでいる。			○
5	2.日本における畜産物の需給の動向 3.畜産の役割 4.科学の発展と畜産	「食料生産」「地域産業」「環境保全」「食育」といった畜産のもつ多面的な役割について、総合的に考えることができる。		○	
		畜産が食料生産において果たしている役割と畜産の課題について理解している。	○		

6	第二章 家畜の生理・生態 と飼育環境 1.家畜の生理・生態	家畜を取り巻く飼育環境に関心を持ち、家畜の環境への対応能力と飼育環境の改善、動物福祉と家畜飼育についての学習に意欲的に取り組んでいる。			○
		家畜の観察や調査を通して生理・生態的な特性と生育の特徴を考察することができる。		○	
		家畜の分類や家畜化の条件など、家畜に関する基礎知識を身につけている。	○		
7	2.飼育環境の調節 3.家畜排せつ物の 処理と利用	家畜排せつ物の利用法に関心を持つことができる。			○
		家畜と飼育環境との関係を理解し、家畜にとっての快適な環境について考えることができる。		○	
		家畜排せつ物の利用として、良質な堆肥の製造を行うことができる。	○		
9	第三章 家畜と飼料 1.家畜の栄養と栄 養素	家畜の栄養と飼料について興味をもつことができる。			○
		家畜と栄養の概念を通して、食糧生産における畜産と飼料の関係について、その課題を考えることができる。		○	
		各家畜の消化器官と消化・吸収について、特性を理解し飼料給与を行うことができる。	○		
10	2.家畜の消化器官 と飼料の消化・吸 収	家畜の栄養と飼料について興味をもつことができる。			○
		家畜と栄養の概念を通して、食糧生産における畜産と飼料の関係について、その課題を考えることができる。		○	
		家畜の栄養と栄養素について科学的に理解している。	○		
11	3.飼料の特性と給 与 4.飼料作物の特徴 と草地の管理	飼料作物の栽培とその利用について関心をもつことができる。			○
		飼料作物、牧草の栽培と利用法について、自給飼料の意義を踏まえながら考えることができる。		○	
		飼養標準を活用して各家畜の状態に応じた飼料給与を行うことができる。	○		
12	第四章 家畜の飼育 1.養鶏	鶏の特性に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		鶏の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		鶏の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
1	2.養豚	豚の特性に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		豚の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		豚の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
2	3.酪農	乳牛の特性に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		乳牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		乳牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		

教科・科目（単位数）	農業・総合実習（4単位）	学年	2年
使用教科書・副教材等	実験動物の技術と応用 入門編 増補改訂版 （アドスリー）	集団	23HR 動物活用コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- （1）農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- （2）農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- （3）農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	動物の飼育に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について理解するとともに、総合的な技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	動物の飼育に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。
③主体的に学習に取り組む態度	動物の飼育に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組む態度が身につけている。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験・実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実験・実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実験・実習レポート、提出物等への取組状況、授業への取組、当番実習への取組等）
------	---

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	○羊の毛刈り ○栄養と飼料	羊の扱いと管理方法、羊の毛刈り方法について理解している。			○
		羊の毛刈りについて関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。			○
		動物の栄養と飼料について、動物に合った給与を理解している。		○	○
5	○偶蹄目の爪切り ○栄養と飼料	偶蹄目の特徴について理解している。	○		
		偶蹄目の動物の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
		動物の代謝や消化のしくみについて理解し、各動物の特徴に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。	○		
6	○イヌ ○飼育と衛生	適切な施設・設備について理解している	○		
		イヌの日常的な管理について考え、実習に協働的に取り組むことができる。			○
		イヌの形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
7	○羊毛の利用 ○施設と環境	繁殖の重要性や繁殖の時期について理解している。	○		
		畜産物の利用や加工方法について理解している。	○		
		羊毛の加工方法を理解し、実習に意欲的に取り組んでいる。			○

9	○羊毛の利用 ○施設と環境	羊毛の加工方法を理解し、実習に意欲的に取り組んでいる。			○
		実験動物の飼育環境について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○	○
		実験動物の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
10	○ウマ ○解剖と生理	ウマの生態についてについて理解している。	○		
		ウマの形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。	○		
		乳器の構造・乳排出のしくみについて理解し、各個体の特徴に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。			○
11	○解剖と生理 ○繁殖	解剖手順や臓器の仕組みを理解し、実習を行う際に自ら判断するとともに、意欲的に取り組んでいる。	○	○	
		実験動物の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
		適切な施設環境について考え、飼育管理する上で必要な資材について理解し、意欲的に取り組むことができる。	○	○	
12	○山羊 ○呼吸器・循環器	家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。	○		
		山羊の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
		動物の呼吸器や循環器について理解している。			○
1	○学習理論 ○労働安全性	動物の学習理論や習性について理解し、実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
		動物のしつけについて関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○	○
		動物管理従事者としての責任と守るべき安全性について理解している。	○		
2	○動物行動学 ○実験動物の基本	動物の学習理論を理解したうえで、その行動を予測してしつけをし、成果を表現できる。		○	
		実験動物の飼育環境について総合的に理解している。	○		

教科・科目 (単位数)	農業・総合実習 (4単位)	学年	2年
使用教科書・副教材等	畜産 (実教出版)	集団	23HR 生産動物コース
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、乳牛の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	・農業の産業現場等における総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について理解するとともに、総合的な技術が身に付いている。
② 思考・判断・表現	・農業の産業現場等における総合的な知識と技術や、経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・農業の産業現場等における総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析(定期試験、小テスト、実験実習プリント、レポート 等) ・記述の点検、確認、分析(実験プリント、レポート、グループワーク 等) ・学習状況の観察、確認(実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み、当番実習への取り組み 等)

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	④
4	飼料作物の特徴と草地の管理	飼料作物・牧草の種類と特徴、草地の管理方法について理解している。			○
	乳牛の管理	家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○	○
		乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
5	酪農の施設・設備とその利用	牛舎内の施設・設備について理解している。	○		
	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
		乳器の構造・乳排出のしくみについて理解し、各個体の特徴に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。	○		
6	酪農の施設・設備とその利用②	適切な施設・設備について理解している	○		
	乳牛の管理	適切な施設環境について考え、実習に協働的に取り組むことができる。		○	○
		乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
7	乳牛の繁殖 子牛の育成	繁殖の重要性や繁殖の時期について理解している。	○		
		人工授精・受精卵移植から分娩について理解している。	○		
	草地の管理	牧草(サイレージ)について理解し、実習に意欲的に取り組んでいる。			○
	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○

9		家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。			○
	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
10	酪農の施設・設備とその利用	牛舎内の施設・設備について理解している。	○		
		乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。	○		
11	乳牛の管理	乳器の構造・乳排出のしくみについて理解し、各個体の特徴に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。		○	○
	酪農の施設・設備とその利用	搾乳方法・手順について理解し、搾乳実習を行う際に自ら判断するとともに、意欲的に取り組んでいる。	○	○	
12	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
	酪農の施設・設備とその利用③	適切な施設環境について考え、飼育管理する上で必要な資材について理解し、意欲的に取り組むことができる。	○		
		草地の管理	家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。	○	○
1	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
2	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
		草地の管理	家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○

教科・科目 (単位数)	農業・課題研究 (1)	学年	2年
使用教科書・副教材等	なし	集団	23HR
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識が身に付いている。課題解決に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、各科目で学習した知識と技術を再認識し、その技術が身に付いている。
② 思考・判断・表現	農業に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力が身に付いている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	農業に関する課題について興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようと主体的に取り組む態度が身に付いている。

評価方法	プロジェクト学習 (調査、実験、分析、まとめ、発表) の内容および取り組み
------	---------------------------------------

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	学校農業クラブ活動 ・意見発表会 ・FFJ 検定 ・農業鑑定競技会 産業現場等における実習	農業クラブ活動について体系的・系統的に理解している。	○		
5		農業クラブ活動や産業実習を通して食の課題を発見し、解決する力を身に付けている。		○	
6		農業クラブ活動や産業実習を自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
9	学校農業クラブ活動社会性・指導性を学ぶ (自作教材による自己理解学習) 課題調査・研究・実験・発表	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解している。調査・研究する技術を身に付けている。	○		
10		農業に関する総合的な課題を発見し、農業についての課題を研究する力を身に付けている。		○	
11		農業に関する課題について自ら考え、課題調査・研究・実験に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
12					
1	研究課題の設定・計画	それぞれに発見した課題研究テーマに従い、計画を立て研究に取り組む。	○	○	○
2		毎時間実施することを各自が考え、課題点について担当からアドバイスを受ける。			
3		動物管理・観察実験・記録の実施。			

教科・科目（単位数）	農業・食品製造（2単位）	学年	2年
使用教科書・副教材等	食品製造（実教出版）	集団	23HR 生産動物コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- （2）食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- （3）食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	食品製造に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけている。農業の社会的な意義や役割について理解している。
② 思考・判断・表現	食品製造に関する諸課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。
③主体的に学習に取り組む態度	食品の製造実習等について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度が身につけている。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験・実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実験・実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実験・実習レポート、提出物等への取組状況、授業への取組等）
------	--

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	「食品製造」とプロジェクト学習	食品製造に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食品製造に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		食品製造について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
	食品製造の意義と動向 果実類の加工	「食品」についての正しい認識を踏まえて、食品製造の目的を十分に理解している。	○		
		ジャム類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
5	食品製造の意義と動向 食品製造の基礎 果実類の加工	食生活の変化に伴う加工食品の開発、さらに、消費者ニーズや生活様式の変化と食品産業の対応について理解している。		○	
		食品成分表による分類を理解している。	○		
		ジャム類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組んでいる。			○
6	食品製造の基礎 穀類の加工	タンパク質、脂質、糖質、酵素や pH、殺菌、食品アレルギー等「食品製造」の基礎となる知識を理解している。	○		
		米と小麦について、その種類や加工特性を理解している。	○		
		麺類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
7	食品の変質と貯蔵	微生物や酵素、温度や光等によって生じる食品の変質について理解している。	○		

	穀類の加工	食品の貯蔵性を向上されるための方法と種類、原理を理解している。	○		
		類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組んでいる。		○	○
9	牛乳の加工	牛乳の成分の特徴と加工特性および牛乳の加工品の種類を理解している。	○		
10	食品加工と食品衛生	食品の安全を守るための食品衛生の目的とその重要性を理解している。	○		
	牛乳の加工	主な食中毒の種類と発生状況を学習させ、その発生原因と予防対策を理解している。		○	
11	牛乳の加工	ヨーグルトやチーズなど、乳製品の製造原理を理解させ、製造に必要な知識を習得している。	○		
		乳類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○	○	
12	食品の包装と表示	食品包装の働きや目的を理解させ、それに伴う放送の種類や分類について学習している。	○		
	牛乳の加工	乳類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組んでいる。		○	○
1	食品の包装と表示	食品包装の資源や環境に関わる容器包装リサイクル法について理解している。	○		
	肉類の加工	肉類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○	○	
2	肉類の加工	食肉の種類とその処理方法及び原料肉の選択の仕方を学習させ、食肉の加工特性および肉加工品との関係を理解している。	○	○	
		肉類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組んでいる。			○

教科・科目（単位数）	農業・飼育と環境（2）	学年	2年
使用教科書・副教材等	飼育と環境（海文堂出版）	集団	23HR 動物活用コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、飼育動物の育成環境の調節・管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）飼育と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- （2）飼育と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- （3）飼育と環境について農業生物の飼育や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	飼育と環境に関連した課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させている。課題解決に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、学習した知識と技術を再認識し、その技術を適切に活用している。
② 思考・判断・表現	飼育と環境に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力が身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	飼育と環境に関する課題について興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度が身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験プリント、レポート 等） ・記述の点検、確認、分析（実験プリント、レポート、グループワーク 等） ・学習状況の観察、確認（実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	(1)-1 「飼育と環境」とプロジェクト学習	プロジェクト学習に主体的に取り組む飼育と環境に関する知識や技術を身につけている。	○		
		プロジェクト学習法により、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。		○	
		プロジェクト学習法により、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する態度を身につけている。			○
5	(1)-2 「飼育と環境」とプロジェクト学習	動物の飼育と環境に関する諸課題を主体的に解決するプロジェクト学習に取り組む力を身につけている。	○		
		動物の飼育と環境に関する諸課題を主体的に解決するプロジェクト学習に取り組む態度を身につけている。		○	
		動物の飼育と環境に関する諸課題を主体的に解決するプロジェクト学習に取り組む技術を身につけている。			○
6	(2)-1 飼育の目的と現状	飼育の目的や現状を理解している。			○
		飼育の目的や現状を理解している。			○
		飼育の目的や現状を理解している。			○
7	(2)-2 飼育の目的と現状	飼育の目的や現状を理解している。		○	
		飼育の目的や現状を理解している。		○	
		飼育の目的や現状を理解している。		○	

9	(3)-1 飼育と環境	動物に関する一般的な知識を習得している。		○	
		動物に関する一般的な知識を習得している。		○	
		動物に関する一般的な知識を習得している。		○	
10	(3)-2 飼育と環境	動物飼育（アニマルウエルフェア）の概念を理解し、飼育管理における実践する態度を身につけている。		○	
		動物飼育（アニマルウエルフェア）の概念を理解し、飼育管理における実践する態度を身につけている。		○	
		動物飼育（アニマルウエルフェア）の概念を理解し、飼育管理における実践する態度を身につけている。		○	
11	(3)-3 飼育と環境	飼育動物の健康管理と衛生管理を理解している。		○	
		動物飼育に関する法律や制度、GAP・HACCPによる生産工程の管理について理解している。		○	
		動物飼育に関する法律や制度、GAP・HACCPによる生産工程の管理について理解している。		○	
12	(4)-1 飼育技術と管理・評価	社会動物、産業動物、実験動物について、種類と特性を理解している。	○		
		社会動物、産業動物、実験動物について、種類と特性を理解している。	○		
		社会動物、産業動物、実験動物について、種類と特性を理解している。	○		
1	(4)-2 飼育技術と管理・評価	社会動物、産業動物、実験動物について、種類と特性を理解している。	○		
		社会動物、産業動物、実験動物について、種類と特性を理解している。	○		
		社会動物、産業動物、実験動物について、種類と特性を理解している。	○		
2	(4)-3 飼育技術と管理・評価	野生動物の現状や保護活動の取り組みについて理解している。	○		
		野生動物の現状や保護活動の取り組みについて理解している。	○		
		野生動物の現状や保護活動の取り組みについて理解している。	○		

教科・科目（単位数）	農業・生物活用（２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	生物活用（実教出版）	集団	33HR 動物活用コース
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生物活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 （２）生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）生物活用について交流による効果向上が生活の質の発展へつながるよう自ら学び、農業や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	社会動物の生態および動物を育てる楽しさやかわいがる喜びを体感できる動物介在活動の計画立案方法や活動の支援方法および、海外の事例を用いた動物介在療法の基礎知識を理解している。
② 思考・判断・表現	社会動物の生態および動物を育てる楽しさやかわいがる喜びを体感できる動物介在活動の計画立案方法を行い、計画→実践→反省→再実践を繰り返してより良い活動結果を求める力を身に付けている
③主体的に学習に取り組む態度	社会動物の生態および動物を育てる楽しさやかわいがる喜びを体感できる動物介在活動の目的を理解し、それらを実際実践する態度が身についている。

評価方法	授業への取り組み、振り返り、分析 実習への取り組み、振り返り、分析 定期試験の理解度 レポート・提出物の内容
------	---

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5	(1) 生物活用の意義と役割	動物介在活動の意義、実際の取り組み方と、活動上留意する安全性の概念を理解している。 動物介在活動（AAA）と動物介在療法の異なる点と、生活の質（QOL）を向上させるために必要な活動のポイントを理解している。	○		○
6 7	(2) 動物・植物と人間生活	春播き草花・野菜・飼料作物の栽培と活用法と実践する態度が身についている。 イヌ、小動物の生理・生態、人間との関わりについて及び、介在活動に用いる管理動物の健康上の留意点（飼料の安全性、危険な食材に対する科学的な見地）を理解している。	○	○	○
9 10	(3) 社会動物の飼育と活用	イヌ、小動物の飼育環境や飼料の給与方法の基礎知識と、飼育される動物に関わる病気に関する知識と予防法を理解している。		○	
11 12	(4) 生物を活用した療法・活動	近隣小学校、幼稚園、保育園の児童に対して動物介在活動をPDC Aサイクルによって実践（事前プログラム、実践、活動の反省、次回への反映）態度が身についている。 分離教育と共生教育について理解している。	○	○	○
1 2	(5) 生物活用の実際	近隣小学校、幼稚園、保育園の児童に対して動物介在活動をPDC Aサイクルによって実践（事前プログラム、実践、活動の反省、次回への反映）する態度を身につけている。 動物行動学の基礎知識を理解している。	○	○	○

(6)「生物活用」とプロジェクト学習	生物活用に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
	生物活用に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
	生物活用について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○

教科・科目（単位数）	農業・畜産（２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	畜産（実教出版）	集団	３３HR 動物活用コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

（２）家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

（３）家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	家畜の特性や飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身に付け、飼育環境と家畜の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解している。各家畜に適した飼育管理技術、家畜及び畜産物の利用方法を身につけている。
② 思考・判断・表現	家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境及び飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境との関わりについて、適切に判断する能力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味・関心を持ち、飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身に付け、適切な飼育管理ができる意欲的な態度を身につけている。

評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験プリント、レポート 等）
	・記述の点検、確認、分析（実験プリント、レポート、グループワーク 等）
	・学習状況の観察、確認（実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			③	④	⑤
4	3.酪農	乳牛の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		乳牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。		○	
		乳牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
5	4.肉牛	肉牛の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		肉牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。		○	
		肉牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
6	4.肉牛	肉牛の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		肉牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。		○	
		肉牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
7	5.そのほかの家畜馬	馬の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		馬の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力		○	

		を身に付けている。			
		馬の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
9	馬	馬の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		馬の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		馬の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
10	山羊	山羊の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		山羊の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		山羊の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
11	綿羊	綿羊の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		綿羊の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		綿羊の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
12	綿羊 6.野生生物への対応	綿羊・野生生物の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		綿羊・野生生物の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		綿羊・野生生物の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
1	第5章 畜産経営の実践	畜産経営の収益構造について関心をもつことができる。			○
		利益増加について、どのような手段があるかを考えることができる。		○	
		経営の収支構造を理解している。	○		
	年間学習のまとめ	飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身に付け、適切な飼育管理ができる意欲的な態度を身に付けている。			○
		畜産の発展と地球環境との関わりについて、適切に判断する能力を身に付けている。		○	
		各家畜に適した飼育管理技術、家畜及び畜産物の利用方法を身に付けている。	○		

教科・科目（単位数）	農業・畜産（４）	学年	３年
使用教科書・副教材等	畜産（実教出版）	集団	３３HR 生産動物コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

（２）家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

（３）家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	家畜の特性や飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身に付け、飼育環境と家畜の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解している。各家畜に適した飼育管理技術、家畜及び畜産物の利用方法を身につけている。
② 思考・判断・表現	家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境及び飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境との関わりについて、適切に判断する能力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味・関心を持ち、飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身に付け、適切な飼育管理ができる意欲的な態度を身につけている。

評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験プリント、レポート 等）
	・記述の点検、確認、分析（実験プリント、レポート、グループワーク 等）
	・学習状況の観察、確認（実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	3.酪農	乳牛の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		乳牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。		○	
		乳牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
5	4.肉牛	肉牛の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		肉牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。		○	
		肉牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
6	4.肉牛	肉牛の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		肉牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。		○	
		肉牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
7	5.そのほかの家畜馬	馬の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		馬の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力		○	

		を身に付けている。			
		馬の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
9	馬	馬の特性に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		馬の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		馬の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
10	山羊	山羊の特性に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		山羊の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		山羊の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
11	綿羊	綿羊の特性に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		綿羊の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		綿羊の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
12	綿羊 6.野生生物への対応	綿羊・野生生物の特性に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		綿羊・野生生物の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		綿羊・野生生物の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
1	第5章 畜産経営の実践	畜産経営の収益構造について関心をもつことができる。			○
		利益増加について、どのような手段があるかを考えることができる。		○	
		経営の収支構造を理解している。	○		
	年間学習のまとめ	飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身に付け、適切な飼育管理ができる意欲的な態度を身に付けている。			○
		畜産の発展と地球環境との関わりについて、適切に判断する能力を身に付けている。		○	
		各家畜に適した飼育管理技術、家畜及び畜産物の利用方法を身に付けている。	○		

教科・科目 (単位数)	農業・総合実習 (2単位)	学年	3年
使用教科書・副教材等	実験動物の技術と応用 入門編 増補改訂版 (アドスリー)	集団	33HR 動物活用コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	動物の飼育に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について理解するとともに、総合的な技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	動物の飼育に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する態度を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	動物の飼育に関する総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析 (定期試験、小テスト、実験・実習プリント、レポート 等) ・記述の点検、確認、分析 (実験・実習プリント、レポート、グループワーク 等) ・学習状況の観察、確認 (実験・実習レポート、提出物等への取組状況、授業への取組、当番実習への取組 等)
------	---

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	○羊の毛刈り ○栄養と飼料	羊の扱いと管理方法、羊の毛刈り方法について理解している。			○
		羊の毛刈りについて関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。			○
		動物の栄養と飼料について、動物に合った給与を理解している。		○	○
5	○偶蹄目の爪切り ○栄養と飼料	偶蹄目の特徴について理解している。	○		
		偶蹄目の動物の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
		動物の代謝や消化のしくみについて理解し、各動物の特徴に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。	○		
6	○イヌ ○飼育と衛生	適切な施設・設備について理解している	○		
		イヌの日常的な管理について考え、実習に協働的に取り組むことができる。			○
		イヌの形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
7	○羊毛の利用 ○施設と環境	繁殖の重要性や繁殖の時期について理解している。	○		
		畜産物の利用や加工方法について理解している。	○		
		羊毛の加工方法を理解し、実習に意欲的に取り組んでいる。			○

9	○羊毛の利用 ○施設と環境	羊毛の加工方法を理解し、実習に意欲的に取り組んでいる。			○
		実験動物の飼育環境について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○	○
		実験動物の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
10	○ウマ ○解剖と生理	ウマの生態についてについて理解している。	○		
		ウマの形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。	○		
		乳器の構造・乳排出のしくみについて理解し、各個体の特徴に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。			○
11	○解剖と生理 ○繁殖	解剖手順や臓器の仕組みを理解し、実習を行う際に自ら判断するとともに、意欲的に取り組んでいる。	○	○	
		実験動物の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
		適切な施設環境について考え、飼育管理する上で必要な資材について理解し、意欲的に取り組むことができる。	○	○	
12	○山羊 ○呼吸器・循環器	家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。	○		
		山羊の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。			○
		動物の呼吸器や循環器について理解している。			○
1	○学習理論 ○労働安全性	動物の学習理論や習性について理解し、実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
		動物のしつけについて関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○	○
		動物管理従事者としての責任と守るべき安全性について理解している。	○		
2	○動物行動学 ○実験動物の基本	動物の学習理論を理解したうえで、その行動を予測してしつけをし、成果を表現できる。		○	
		実験動物の飼育環境について総合的に理解している。	○		

教科・科目 (単位数)	農業・総合実習 (2単位)	学年	3年
使用教科書・副教材等	畜産 (実教出版)	集団	33HR 生産動物コース
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、乳牛の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について理解するとともに、総合的な技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や、経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する態度を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や、経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析(定期試験、小テスト、実験実習プリント、レポート 等) ・記述の点検、確認、分析(実験プリント、レポート、グループワーク 等) ・学習状況の観察、確認(実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み、当番実習への取り組み 等)

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	飼料作物の特徴と草地の管理	飼料作物・牧草の種類と特徴、草地の管理方法について理解している。		○	○
	乳牛の管理	家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○	○
		乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
5	酪農の施設・設備とその利用	牛舎内の施設・設備について理解している。	○	○	
	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
		乳器の構造・乳排出のしくみについて理解し、各個体の特徴に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。	○	○	
6	酪農の施設・設備とその利用②	適切な施設・設備について理解している。	○	○	
	乳牛の管理	適切な施設環境について考え、実習に協働的に取り組むことができる。		○	○
		乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
7	乳牛の繁殖 子牛の育成	繁殖の重要性や繁殖の時期について理解している。	○	○	
		人工授精・受精卵移植から分娩について理解している。	○	○	
	草地の管理	牧草(サイレージ)について理解し、実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○

9		家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○	○
	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
10	酪農の施設・設備とその利用	牛舎内の施設・設備について理解している。	○	○	
		乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。	○	○	
11	乳牛の管理	乳器の構造・乳排出のしくみについて理解し、各個体の特徴に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。		○	○
	酪農の施設・設備とその利用	搾乳方法・手順について理解し、搾乳実習を行う際に自ら判断するとともに、意欲的に取り組んでいる。	○	○	
12	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
	酪農の施設・設備とその利用③	適切な施設環境について考え、飼育管理する上で必要な資材について理解し、意欲的に取り組むことができる。	○	○	
		草地の管理	家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。	○	○
1	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
	乳牛の管理	乳牛の形態や習性について理解し、管理実習に意欲的に取り組んでいる。		○	○
		草地の管理	家畜の飼料について関心を持ち、実習に意欲的・協働的に取り組んでいる。		○

教科・科目（単位数）	農業・課題研究（２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	なし	集団	３３HR
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 （２）農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 （３）課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させている。課題解決に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、各科目で学習した知識と技術を再認識し、その技術を適切に活用している。
② 思考・判断・表現	農業に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	農業に関する課題について興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。

評価方法	プロジェクト学習（調査、実験、分析、まとめ、発表）の内容および取り組み
------	-------------------------------------

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5 6 7	研究テーマの設定・計画	研究テーマについて体系的・系統的に理解している。	○		
		課題研究を通して農業の課題を発見し、解決する力を身に付けている。		○	
		研究テーマに対して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
9 10 11 12	研究の実施 実験・実習とレポート作成	研究テーマを総合的に捉え体系的・系統的に理解している。調査・研究する技術を身に付けている。	○		
		農業に関する総合的な課題を発見し、農業についての課題を研究する力を身に付けている。		○	
		農業に関する課題について自ら考え、課題調査・研究・実験に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
1 2	研究結果のまとめ・発表	研究実験の目的や結果を総合的に捉え体系的・系統的に理解している。	○		
		研究中を通して課題を発見し解決方法を考えることで、農業についての課題を研究する力を身に付けている。		○	
		課題研究について自ら考え、研究・実験結果のまとめ・発表に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

教科・科目（単位数）	農業・食品流通（2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	食品流通（実教出版）	集団	33HR 生産動物コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品の流通とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 食品流通について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食品流通に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食品流通について合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

評価方法	・1学期中間テスト（食をめぐる世界の動向、食と生活の動向、）・期末テスト（食生活と健康、食品流通の構造、食品の保管、物流と情報システム）レポート、課題等の内容を評価する。
	・2学期中間テスト（食品の品質管理、食品の輸出入、食品のマーケティングの概要）・期末テスト（食品のマーケティング戦略、食品のブランド化、市場調査・環境分析）、レポート、課題等の内容を評価する。
	・学年末テスト（マーケティング戦略の策定、食品マーケティングの実践と評価、1年間のまとめ）実験実習レポート、課題等の内容を評価する。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	「食品流通」とプロジェクト学習	食品流通とマーケティングに関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食品流通とマーケティングに関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
5	食と消費の動向	食品流通とマーケティングについて自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
		食と消費の動向について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
6	食と消費の動向	食と消費の動向に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		食と消費の動向について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
7	食品の流通・保管と物流	食品の流通・保管と物流について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食品の流通・保管と物流に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
9	食品の流通・保管と物流	食品の流通・保管と物流について自ら学び、主体的かつ協働的に			○

		取り組むことができる。			
11	食品のマーケティング	食品のマーケティングについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食品のマーケティングに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
12		食品のマーケティングについて自分の意思や判断に基づき、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
1	食品流通・マーケティングの実践	食品流通・マーケティングの実践について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食品流通・マーケティングの実践に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		食品流通・マーケティングの実践について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○

教科・科目（単位数）	農業・食品製造（2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	食品製造（実教出版）	集団	33HR 動物活用コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	食品製造に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、農業の社会的な意義や役割について理解している。
② 思考・判断・表現	食品製造に関する諸課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する態度を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	食品の製造実習等について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験・実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実験・実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実験・実習レポート、提出物等への取組状況、授業への取組等）
------	--

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			③	④	⑤
4	「食品製造」とプロジェクト学習	食品製造に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食品製造に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		食品製造について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
	食品製造の意義と動向 果実類の加工	「食品」についての正しい認識を踏まえて、食品製造の目的を十分に理解している。	○		
		ジャム類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
5	食品製造の意義と動向 食品製造の基礎 果実類の加工	食生活の変化に伴う加工食品の開発、さらに、消費者ニーズや生活様式の変化と食品産業の対応について理解している。		○	
		食品成分表による分類を理解している。	○		
		ジャム類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
6	食品製造の基礎 穀類の加工	タンパク質、脂質、糖質、酵素や pH、殺菌、食品アレルギー等「食品製造」の基礎となる知識を理解している。	○		
		米と小麦について、その種類や加工特性を理解している。	○		
		麺類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
7	食品の変質と貯蔵	微生物や酵素、温度や光等によって生じる食品の変質について理解している。	○		

	穀類の加工	食品の貯蔵性を向上されるための方法と種類、原理を理解している。	○		
		麺類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

9	牛乳の加工	牛乳の成分の特徴と加工特性および牛乳の加工品の種類を理解している。	○		
10	食品加工と食品衛生	食品の安全を守るための食品衛生の目的とその重要性を理解している。	○		
	牛乳の加工	主な食中毒の種類と発生状況を学習させ、その発生原因と予防対策を理解している。		○	
11	牛乳の加工	ヨーグルトやチーズなど、乳製品の製造原理を理解させ、製造に必要な知識を習得している。	○		
		乳類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。			
12	食品の包装と表示	食品包装の働きや目的を理解させ、それに伴う放送の種類や分類について学習している。	○		
	牛乳の加工	乳類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
1	食品の包装と表示	食品包装の資源や環境に関わる容器包装リサイクル法について理解している。	○		
	肉類の加工	肉類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
	肉類の加工	食肉の種類とその処理方法及び原料肉の選択の仕方を学習させ、食肉の加工特性および肉加工品との関係を理解している。	○		
		肉類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

教科・科目（単位数）	農業・食品製造（3単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	食品製造（実教出版）	集団	33HR 生産動物コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	食品製造に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、農業の社会的な意義や役割について理解している。
② 思考・判断・表現	食品製造に関する諸課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	食品の製造実習等について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験・実習プリント、レポート等） ・記述の点検、確認、分析（実験・実習プリント、レポート、グループワーク等） ・学習状況の観察、確認（実験・実習レポート、提出物等への取組状況、授業への取組等）
------	--

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			③	④	⑤
4	食品製造の意義と動向	「食品」についての正しい認識を踏まえて、食品製造の目的を十分に理解している。	○		
	果実類の加工	ジャム類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
5	食品製造の意義と動向	食生活の変化に伴う加工食品の開発、さらに、消費者ニーズや生活様式の変化と食品産業の対応について理解している。		○	
	食品製造の基礎	食品成分表による分類を理解している。	○		
	果実類の加工	ジャム類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
6	食品製造の基礎	タンパク質、脂質、糖質、酵素や pH、殺菌、食品アレルギー等「食品製造」の基礎となる知識を理解している。	○		
	穀類の加工	米と小麦について、その種類や加工特性を理解している。	○		
		麺類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
7	食品の変質と貯蔵	微生物や酵素、温度や光等によって生じる食品の変質について理解している。	○		
	穀類の加工	食品の貯蔵性を向上されるための方法と種類、原理を理解している。	○		
		麺類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

9	牛乳の加工	牛乳の成分の特徴と加工特性および牛乳の加工品の種類を理解している。	○		
10	食品加工と食品衛生	食品の安全を守るための食品衛生の目的とその重要性を理解している。	○		
	牛乳の加工	主な食中毒の種類と発生状況を学習させ、その発生原因と予防対策を理解している。		○	
11	牛乳の加工	ヨーグルトやチーズなど、乳製品の製造原理を理解させ、製造に必要な知識を習得している。	○		
		乳類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
12	食品の包装と表示	食品包装の働きや目的を理解させ、それに伴う放送の種類や分類について学習する態度を身に付けている。	○		
	牛乳の加工	乳類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
1	食品の包装と表示	食品包装の資源や環境に関わる容器包装リサイクル法について理解している。	○		
	肉類の加工	肉類の製造実習を通して製造原理や製造方法を理解している。	○		
2	肉類の加工	食肉の種類とその処理方法及び原料肉の選択の仕方を学習させ、食肉の加工特性および肉加工品との関係を理解している。	○		
		肉類の製造実習において、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

教科・科目（単位数）	農業・飼育と環境（3）	学年	3年
使用教科書・副教材等	動物バイオテクノロジー（電機大学出版）	集団	33HR 動物活用コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）飼育と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- （2）飼育と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- （3）飼育と環境について農業生物の飼育や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	飼育と環境に関連した課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させている。課題解決に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、学習した知識と技術を再認識し、その技術を適切に活用している。
② 思考・判断・表現	飼育と環境に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	飼育と環境に関する課題について興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験プリント、レポート 等） ・記述の点検、確認、分析（実験プリント、レポート、グループワーク 等） ・学習状況の観察、確認（実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	(5)-1 家畜の飼料と管理	家畜の消化器と消化・吸収の機能について理解している。			○
		家畜の消化器と消化・吸収の機能について理解している。			○
		家畜の消化器と消化・吸収の機能について理解している。			○
5	(5)-2 家畜の飼料と管理	飼料給与の方法、栄養素要求量の求め方を理解している。	○		○
		飼料給与の方法、栄養素要求量の求め方を理解している。	○		○
		飼料給与の方法、栄養素要求量の求め方を理解している。	○		○
6	(5)-3 家畜の飼料と管理	飼料作物の栽培と調整方法について理解している。			○
		飼料作物の栽培と調整方法について理解している。			○
		飼料作物の栽培と調整方法について理解している。			○
7	(5)-4 家畜の飼料と管理	家畜の飼養管理方法を習得している。		○	
		家畜の飼養管理方法を習得している。		○	
		家畜の飼養管理方法を習得している。		○	
9	(6)-1 家畜の繁殖技術	動物の生殖生理と繁殖管理を理解している。		○	
		動物の生殖生理と繁殖管理を理解している。		○	
		動物の生殖生理と繁殖管理を理解している。		○	

10	(6)-2 家畜の繁殖技術	妊娠から分娩の仕組みを理解している。		○	
		妊娠から分娩の仕組みを理解している。		○	
		妊娠から分娩の仕組みを理解している。		○	
11	(6)-2 家畜の繁殖技術	家畜の改良技術と繁殖技術を理解している。		○	
		家畜の改良技術と繁殖技術を理解している。		○	
		家畜の改良技術と繁殖技術を理解している。		○	
12	(7)-1 飼育の実践	学校における動物飼育を実践し、飼育技術を習得している。	○		
		学校における動物飼育を実践し、飼育技術を習得している。	○		
		学校における動物飼育を実践し、飼育技術を習得している。	○		
1	(7)-2 飼育の実践	地域との調和を目指した取り組みから広報活動をおこない、主体的に取り組む態度を養う。	○		○
		地域との調和を目指した取り組みから広報活動をおこない、主体的に取り組む態度を養う。	○		○
		地域との調和を目指した取り組みから広報活動をおこない、主体的に取り組む態度を養う。	○		○